

## 令和6年度 アーティスト・フォローアップ（モデル）事業 募集要項 【絵画・彫刻】

### 1 趣旨

先見性や斬新な発想を持ち、優れた文化芸術活動を行う、才能豊かなアーティストのキャリア形成に係る活動を支援します。

### 2 支援プログラムの概要

次の2つの支援プログラムから、希望するプログラムを選択し、申請してください。両プログラムに申請することも可能ですが、2つのプログラムの両方で採択されることはありません。

#### プログラム1：伴走型（専門家からの助言など及び資金支援）

将来性のある豊かな才能を発掘し、アーティストとしてのキャリア形成に係る活動等に対し、専門家からの助言などの支援及び活動経費の一部を助成します。

##### 【選考人数】

1名又は1グループ

##### 【支援内容】

###### ○人的支援

- ・活動（創造・稽古）場所、機材や作品の保管場所等の紹介
- ・作品制作及びキャリア形成への助言等

###### ○資金支援

活動経費の一部を助成 1件につき上限50万円

※助成対象経費及び助成対象にならない経費については、6（2）を参照

#### プログラム2：テーマ設定型（資金支援のみ）

設定したテーマで、他の芸術家の関心を集める独創性のある芸術活動を行う才能豊かなアーティストに対し、その活動経費の一部を助成します。

##### 【設定するテーマ】

東京の隣接性を意識しつつ、千葉の豊かな自然環境（海、里山、川、水辺）をテーマにした芸術創造活動

##### 【選考人数】

1名又は1グループ

##### 【支援内容】

活動経費の一部を助成 1件につき上限50万円

※助成対象経費及び助成対象にならない経費については、6（2）を参照

### 3 申請者の資格

次の要件を全て満たす個人又はグループを対象とします。（支援プログラム1・2共通）

※グループの場合でも全員がアからウの要件を全て満たすことが必要です。

※申請時点で18歳未満の方は保護者の方の同意の上で申請してください。18歳未満の方が申請した場合は、保護者の同意を得たうえで申請したものとみなします。なお、採択された場合は、同意書の提出が必要です。

ア 千葉県に在住、在学、又は千葉県を活動拠点としていること

※支援期間の始期から終期まで継続して要件を満たしていることが必要です。

イ 絵画・彫刻の分野において活動するアーティスト

ウ 令和7年3月31日時点で39歳以下の者

### 4 支援期間

令和6年4月1日から令和7年2月28日まで

### 5 支援の対象とならないもの

#### (1) 支援の対象とならない活動

次のいずれかに該当する活動（事業）は、支援の対象から除外します。

ア 千葉県や公益財団法人千葉県文化振興財団が主催、共催する事業

イ 千葉県や公益財団法人千葉県文化振興財団から補助金、支援金、助成金、委託費等が支給されている事業又は支給を予定されている事業

ウ 千葉県及び公益財団法人千葉県文化振興財団が管理運営する各施設（※）との共催事業や提携事業

（※）千葉県文化会館、千葉県東総文化会館、千葉県南総文化ホール、青葉の森公園芸術文化ホール、千葉県立美術館

エ 国際親善や市民レベルでの文化交流を目的とするもの

オ 宗教的又は政治的な宣伝・主張を目的とするもの

カ 慈善事業等への寄付を主な目的とするもの

キ 公序良俗に反する恐れがある活動をするもの

ク 支出以上の収入が見込める活動をするもの

#### (2) 支援の対象とならない者

次のいずれかに該当する者は支援の対象から除外します。

ア 暴力団員等（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第2号に規定する暴力団をいう。）

イ 県税及び千葉県に対する債務の支払い等の滞納がある方

### 6 助成金及び対象経費等

#### (1) 助成金

一件あたり上限50万円とし、次の経費を助成対象とします。

〔制作活動に必要な制作費、会場使用費、印刷費、郵送費、著作権料、保険料など事務費  
発表等の当日運営費、その他制作活動にあたって必要な経費と認められるもの〕

## (2) 助成対象外経費

次の経費は助成対象経費として計上できません。

- ア 交際費、接待費、飲食費
- イ 諸給与、生活費
- ウ 事務所の維持費、管理運営費
- エ 行政機関・金融機関に支払う手数料（パスポート取得経費、印紙代、振込手数料等）
- オ 個人やグループの財産となるものの購入費（機材購入費、事務機器、事務用品の購入・借用費、CD・書籍等資料購入費など）

## 7 申請について

### (1) 申請期間

令和6年1月15日（月）から令和6年1月31日（水）まで（消印有効）

※受付期間を過ぎた申請は一切受け付けません。

### (2) 申請方法

次の書類を提出してください。両プログラム共に希望する場合、1枚の申請書に両プログラムとも記載して提出してください。

- ・ 申請書（第1号様式個人用 又は 第2号様式グループ用）
- ・ 誓約書（第3号様式）
- ・ 申請時から過去2年以内に制作した作品 ※画像提出（二次選考で現物を提出いただきます。）  
（規格 絵画：50号以内、彫刻：最大長辺が70cm以下）
- ・ ポートフォリオ（様式は自由。これまでの活動実績のわかるものをPDF形式で作成。）

申請書類の提出方法は、メールまたは郵送のみとなります。

※簡易書留など、発送記録が確認できる方法で提出してください。

※申請書類の持ち込みでの提出は受け付けません。

※郵便料金不足等の料金未納郵便物は受付できません。

また、料金未納郵便を再送する場合は、再送時の消印が受付期間内であるもののみを受け付けます。

※提出資料に不備があった場合は、選考対象となりませんのでご注意ください。

### (3) 提出先・問い合わせ先

公益財団法人千葉県文化振興財団 文化振興グループ アーティスト・フォローアップ担当宛

住所：〒260-8661 千葉市中央区青葉町9-7-7番1（青葉の森芸術文化ホール内）

電話：043（222）0077（平日午前9時～午後5時）

E-mail：artist-f@cbs.or.jp

URL：<https://www.cbs.or.jp/artist-f/>

## 8 説明会の開催

申請希望者を対象に説明会を実施します。説明会参加希望の方は、下記アドレスにメールで申し込んでください。

- ① 日時：令和5年12月13日（水）午後1時30分から  
会場：千葉県南総文化ホール（館山市北条740-1）
- ② 日時：令和5年12月14日（木）午後1時30分から  
会場：千葉県東総文化会館（旭市ハの666）
- ③ 日時：令和5年12月15日（金）午後1時30分から  
会場：青葉の森公園芸術文化ホール（千葉市中央区青葉町977-1）

説明会参加申し込みアドレス：[artist-f@cbs.or.jp](mailto:artist-f@cbs.or.jp)

以下を明記の上、申し込みをしてください。

メール件名：説明会申込（会場名）

メール本文：①参加者氏名 ②分野 ③メールアドレス ④電話番号

## 9 選考・評価

### （1）選考の方法

専門家からなる次の選考会にて選考を行います。

ア 一次選考（書類選考）

イ 二次選考（一次選考通過者のみ、面接選考）※3月上旬開催予定

一次選考通過者は応募時に提出した作品を搬入いただきます。（規格：絵画の場合50号以内。彫刻の場合は最大長辺70cm以下。）

なお、送料等は応募者負担となります。

### （2）選考委員（順不同） ※プロフィールについては、14を参照。

- ・井浦 歳和（ギャラリスト）
- ・泉 東臣（画家）
- ・金巻 芳俊（彫刻家）
- ・金丸 悠児（画家）
- ・木原 千春（画家）
- ・藤原 さゆり（アートプロジェクトコンサルタント）

### （3）選考ポイント

選考にあたっては、実現性に加えて、アからウの観点を重視し、総合的に審査します。

◎ 実現性：企画、体制、場所、予算、スケジュールの妥当性と進行管理能力があるか。

ア 先見性を持つアーティストであり、活動であるか。

イ 手法や形態、テーマやコンセプトに優れた発想や独創性を有した活動か。

ウ 将来の構想や長期的展望があり、今後の活躍や発展が期待されるか。

## 10 個人情報の取扱い

申請書に記載された個人情報は、千葉県個人情報保護条例に則り、適正に管理します。

ただし、選考や事後評価等のため、外部有識者に提供することがあります。

また、支援後の活動や当支援事業に関するアンケートを送らせていただく場合があります。

## 11 支援対象者の決定について

二次選考の結果は採否にかかわらず、令和6年3月下旬に、文書にて通知します。

また、対象者となった方は公益財団法人千葉県文化振興財団のウェブサイトで公表します。  
なお、一次選考、二次選考ともに採否の理由については、お答えできません。

## 12 留意事項

以下の点について、申請前に必ずご確認ください。【重要】

### (1) 申請できる件数について

同一申請者が当事業に申請できる件数は1件のみです。複数分野への応募、同一申請者が個人とグループの両方に応募することは認められません。

### (2) 二次選考に係る注意事項

二次選考で受領した作品は細心の注意を払いますが、天災等によって損傷や紛失が起こった場合、主催者は一切その責任を負わないものとします。

### (3) 助成金の交付決定の条件

- ア 助成対象となる活動の実施に関する一切の責任を申請者が負うこと。
- イ 助成金を助成対象となる活動以外の目的に使用しないこと。

### (4) 活動の変更（中止）が生じた場合の届出

やむを得ず変更（中止）が生じた場合は、あらかじめ、変更申請書（第4号様式）を提出し、承認を受ける必要があります。

なお、活動内容等審査を経て選考を行っているため、事業の大幅な変更は認められません。  
選定後に大幅な変更が生じると認められる場合は、選定の取消を行う場合があります。

### (5) 助成公付後の条件

支援期間後半に発表の機会を設定するので、本事業の支援による活動成果について発表すること。

### (6) 現地調査への御協力

選考委員及び外部専門委員による活動（事業）の現地調査を行う場合がありますので、ご協力をお願いします。

### (7) 活動報告

#### ア 支援プログラム1の場合

令和7年3月8日（金）までに、活動報告書、年鑑等（チラシやパンフレットなどの印刷物画像や映像等を含む）を提出していただきます。

#### イ 支援プログラム2の場合

支援対象となる活動の終了後30日以内または令和7年3月8日（金）のいずれか早い日までに、活動報告書、年鑑等（チラシやパンフレットなどの印刷物画像や映像等を含む）を提出していただきます。

### (8) 助成金の支払い口座

助成金の支払いは、申請者の金融機関口座への振込により行います。

指定できる口座の名義は、個人の場合は申請者本人の名義、グループの場合はグループの代表者名義の口座に限ります。

### (9) 助成金の返金・減額

助成金の交付後でも、虚偽申告や実績報告内容等に事実と相違する点のあることが判明した場合、申請資格を満たさなくなった場合又は、本事業募集要項及び助成金交付要綱、法令に違反した場合は、支援対象者の決定を取り消し、助成金を返還していただくことがあります。

### (10) 著作権の取扱い

申請に係る作品の著作権は応募者に帰属します。ただし応募者は印刷物、ホームページ掲載、マスコミへのリリース等主催者に著作権を無償で許諾するものとします。

なお、採択された場合、当事業を通して発生したのものも同様とします。

## 13 スケジュール

時 期	支援プログラム 1	支援プログラム 2
R5.11月～R6.1月	申請者募集	
R6.1月(1/15～1/31)	申請書類受付期間	
R6.2月～3月	選考会(一次選考・二次選考)	
R6.3月下旬	助成対象者決定・通知	
R6.4月	事前ヒアリング	○助成対象となる活動の視察
通年	活動視察・活動相談	○助成対象となる活動の完了後
R6.9月～10月	中間ヒアリング	30日以内または令和7年3月
～R7.3月8日〆切	報告書提出	8日のいずれか早い日までに報告書提出

## 14 選考委員プロフィール

### ・井浦 歳和

1974年東京生まれ。2009年ロイドワークスギャラリーを開業。数々の企画展を手がける他、BSフジのTVプログラム「ブレイク前夜～次世代の芸術家たち～」統括プロデューサー。

### ・泉 東臣

1979年千葉県生まれ。2003年東京藝術大学美術学部絵画学科日本画専攻卒業。2004年第15回 臥龍桜日本画大賞展 奨励賞受賞。2005年同大学院美術研究科修士課程デザイン科描画装飾研究室(中島千波研究室)修了。修了制作 デザイン賞受賞。2010年～2012年東京藝術大学美術学部非常勤講師。2017～2021 アートギャザリング公募展 IAG AWARDS 審査員。現在、日本美術家連盟会員。

### ・金巻 芳俊

1972年千葉県生まれ。99年多摩美術大学美術学部彫刻学科卒業。「人間とは何か?」を主題として追求している。現代人ならば誰しも持ち合わせている両義的な迷いの感情を「アンビバレンス」と呼称した概念で木彫刻として彫り出している。多様性を謳うこの時代は誰も明確な答えを持ち合わせず何が正しいのかもわからない。そんな迷いの時代にどういう表現が必要なのか常に考えている。2012年損保ジャパン美術財団選抜奨励展新作秀作賞受賞。日本国内をはじめ台湾、中国、香港、アメリカ、フランス、ドイツ、英国など海外からも絶大な人気を誇る。本の装幀に採用多数。

## ・金丸 悠児

1978年神奈川県生まれ。2003年東京藝術大学大学院デザイン専攻修了。大藪雅孝と中島千波という日本の二大巨匠に薫陶を受ける。社会におけるアートの役割を常に意識し、アーティスト集団 C-DEPOT を設立、中心メンバーとしても活躍している。2015年「金丸悠児作品集 -時を運ぶ者たち-」刊行。2021年 金丸悠児展（おぶせミュージアム・中島千波館）。国際アートフェアにも多数出展、とりわけアジア圏では絶大なる人気を誇る。

## ・木原 千春

1979年山口県生まれ。高校中退後、独学で絵画を学ぶ。1999年ギャラリー伝にて初個展。主な個展、グループ展、アートフェア参加に、「VOCA2006」（上野の森美術館、東京）、「Vitalism」（roidworksgallery、東京、2012、以降2014年を除き現在まで毎年開催）、「ペコちゃん展」（平塚市美術館、神奈川、2015）、「face to face Vol. II」（Bunkamura Gallery、東京、2022）など多数。その他、星野リゾート界長門のメインロビー作品制作（2020）、BSフジ「ブレイク前夜～次世代の芸術家たち～」出演（2016）、日本テレビ「THE ART HOUSE～そのアートは100年後に残せるか～」（2022）出演。日本の現代アートの魅力を発信するANAによるアートプロジェクト「OFF TO ART」に参加。ANAの国内線の機内放送にて紹介されるなど、その活躍に注目が集まっている。

## ・藤原 さゆり

近代絵画を扱う画廊にて勤務後、自身でギャラリーを主宰。ロンドン大学バーベックカレッジアートポリシー&マネジメント修士課程修了、ウエストミンスター大学アート&ヴィジュアルカルチャー修士課程修了。寺田倉庫アート事業の立ち上げの後、企業や行政のアートコーディネーター、アート事業コンサルタントを行う藤原羽田合同会社を設立。企業や地方自治体などのアートプロデュース、コンサルティング、キュレーションなどアート事業全般を手がけている。藤原羽田合同会社代表、NINE LLP. ディレクター。